

平成18年 2月15日

T-Engine フォーラム会長 坂村 健
ユビキタスIDセンター代表
YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所長
東京大学教授
URL: <http://www.t-engine.org/>

農林水産省 平成17年度ユビキタス食の安全・安心開発事業 『ユビキタス食品情報基盤システム実証事業』に関する記者会見のご連絡

T-Engine フォーラム（東京都品川区、現会員数497社、代表：坂村健・東京大学教授／YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所長）は、ユビキタスコンピューティング時代の実現に向けた、最先端ITの研究開発や標準化、および実証実験を推進しております。

現在、当フォーラムでは、農林水産省平成17年度ユビキタス食の安全・安心開発事業である「ユビキタス食品情報基盤システム実証事業」を進めていますが、平成18年1月25日(水) コープさっぽろ新道店・美園店を皮切りに、サミット三鷹市役所前店、日本橋三越本店で、順次、店舗試験が開始されます。

今回の記者会見では、「ユビキタス食品情報基盤システム」の内容と、これら各拠点での実証試験の内容をご説明いたします。

下記に、記者会見の詳細をご案内いたします。

－ 記 －

- 日 時： 平成18年2月22日（水） 10：30－11：30
- 場 所： YRPユビキタス・ネットワーキング研究所 6F
- 実施品目： 畜産品（鶏肉、豚肉、牛肉）、水産品（養殖鯛、養殖ブリ）、加工食品、青果物、お弁当
- 対象店舗： コープさっぽろ新道店、コープさっぽろ美園店
サミット三鷹市役所前店
日本橋三越本店

●概 要：

(1) 生活協同組合 コープさっぽろ

- ・ユビキタス食品情報基盤システムと従来システムの連動によるメリットを検証します。
- ・店舗での自動包装・計量器システム、牛个体情報システムからの生産・流通履歴データに加え、新たに中央集約によるパックセンターでの高速計量・包装機への技術導入により、畜産・水産品のトレーサビリティ対象アイテムの継続的な拡大や、ユビキタスID技術を基にした高度セキュリティにより、消費者向けの個人別対応システムとして、購入した個別の食品情報（アレルギー）やお買い物データを、安心して情報検索できる仕組みを公開します。
- ・例えば、同ユビキタス技術によるシステムでは、個人によって反応の異なるアレルギー情報を、高度なセキュリティ技術を有する「e-TRONカード」に格納しておくことで、最高のセキュリティ・ネットワーク環境で、特定商品の、個人に対するアレルギー含有判定を行うことが可能です。
- ・何らかの危害が発見された食品が流通してしまった場合、消費者の手もとにある食品が該当するか否かの確認を消費者自身が自宅に居ながら照会し、安全判定を行なうことが可能です。

- ・本実証実験は、コープさっぽろ職員150名以上の参加により、「新道店」ならびに「美園店」にて1月25日より開始されており、複数の産地・メーカー・流通と個人とを結ぶ新たな取り組みとして検証・評価しており、関係食品メーカーとトレーサビリティ技術についての継続的協議を行なう予定です。

(2) サミット株式会社

- ・店舗で扱う計量器のユビキタスモデル化により、畜産物・水産物のパック時のオンラインシステム化を図りました。これは、計量・包装機とコンピュータシステムとを結び、生産から流通までの流れを計量時に情報化し、さらに商品を包装する際に、個包装毎に識別コード（ucode＝ユーコード）を自動的に印字するシステムです。
- ・従来、原料の受け入れ・仕分け・カット・計量・包装という一連の作業時に発生する加工情報を蓄積することは困難でした。本システムでは、これら情報をトレーサビリティシステムと自動連動させることはもとより、商品ラベルも自動印字する仕組みを実現しました。このような開発技術により、店舗バックヤードでの作業状況がオープンとなり、今まで以上に消費者からの信頼を得られると確信しています。
- ・この仕組みは、横展開を考慮した場合に、誰でも取り組みやすい仕組みを実現することを目標に、新規計量器の開発ではなく、既存の計量器の改造にて実現しており、トレーサビリティのための機器導入時のコスト削減や、ランニングコストの低減を目指しています。
- ・本システムは、都内小売店における初めての試験ですが、牛個体情報を含め計量、あるいはパック包装されるまでの技術について、生産から消費までを結ぶトータルなトレーサビリティシステムの手段として有効であり、今回の試験結果を基に、普及性の高い実用システムへの技術転用を目指します。

(3) 株式会社 三越

- ・ucode タグをキーとして生産・流通から販売段階までを網羅した最新のトレーサビリティシステムを運用します。
- ・本システムでは、実験専用のタグを貼るのではなく、商品カードや品質管理ラベルなどの販売システムで従来から使用しているラベルに ucode（二次元コード）を組み入れ、より実用度を高めています。
- ・「今半」のお弁当では、一般の店舗の精肉売り場では専用端末でしか閲覧できなかった牛個体識別番号に対応する情報を、今回の実証事業で使用する店舗内ディスプレイおよび市販の携帯電話で閲覧することができます。

●公開説明会、見学会：

- (1) 2月16日（木） 9:30～11:00 サミット三鷹市役所前店 にて公開説明会が実施されます
- (2) 2月17日（金） 9:30～10:30 コープさっぽろ新道店 にて公開説明会が実施されます
- (3) 2月23日（木） 8:45～ 9:30 日本橋三越本店 にて見学会が実施されます

●協力団体： ユビキタスMD研究・協議会、(株)三越、生活協同組合コープさっぽろ、サミット(株)、(株)横須賀テレコムリサーチパーク 他

●連絡先：

T-Engine フォーラム事務局（YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所内）
東京都品川区西五反田 2-20-1 第 28 興和ビル 担当：伯田、田口
TEL：03-5437-2270 FAX：03-5437-2271
E-mail：press@www.t-engine.org